

登壇者プロフィール

久野 量一

Ryoichi Kuno

東京外国語大学教授。ラテンアメリカ文学研究。博士(学術)。著書に『島の「重さ」をめぐって——キューバの文学を読む』(松籟社、2018年)、『ラテンアメリカ文学を旅する58章』(共編著、明石書店、2024年)など。訳書にマリオ・バルガス＝リョサ『激動の時代』(作品社、2025年)、ロベルト・ボラーニョ『鼻持ちならないガウチョ』(白水社、2014年)など。



棚瀬 あずさ

Azusa Tanase

東京大学大学院総合文化研究科准教授。イスパノアメリカ文学博士(マドリード・コンプルテンセ大学)。近現代詩を研究し、最近は、言葉と声、身体、記憶を介した主体の結びつきに関心を寄せる。著書に『El pensamiento poético de Rubén Darío: una estética en movimiento』(『ルベン・ダリーオの詩想——動きとしての美学』)。



駒井 睦子

Mutsuko Komai

清泉女子大学総合文化学部准教授。横浜生まれ。家族の転勤でブエノスアイレスに暮らしたことから、スペイン語とラテンアメリカ文学に出会う。東京大学大学院博士課程修了。博士(学術)。20世紀初頭のアルゼンチン、ウルグアイの女性詩人、特にアルフォンシーナ・ストルニ、フアナ・デ・イバルブル、デルミラ・アグスティニーニを研究。



新谷 和輝

Kazuki Niiya

名古屋外国語大学現代国際学部助教。1994年、岡山県生まれ。東京外国語大学大学院博士後期課程満期退学。チリやキューバなどラテンアメリカの映画を研究している。主な論文に「証言映画としての『チリの闘い』——闘争の記憶を継承するために」(『映像学』)など。



グレゴリー・サンブラノ

Gregory Zambrano

1963年、ベネズエラのメリダ生まれ。スペイン語文学博士。詩人、エッセイスト、文芸評論家、現代ラテンアメリカ文学の研究者。ベネズエラ詩の「90年代世代」に属する。詩集に『灰の前夜』(1990)、『静寂を制すること』(1994)、『水に没んだ街』(1997)、『オデュッセウスの不眠、その他の詩』(2000)、『静寂の覚書』(2002)、『秘密の地図』(2005)、『不眠の景色』(2015)。詩は日本語、英語、フランス語、ポルトガル語に翻訳されている。



ヤスキン・メルチャー・ラモス

Yaxkin Merchy Ramos

1985年、メキシコシティ生まれ。詩人、翻訳者、環境詩学研究者。2007年、メキシコシティで「野生の詩人たち」を結成し、詩の朗読や路上での芸術活動を展開。2009年、エリアス・ナンディノ若手詩人賞受賞。メキシコ大学院大学で修士号、筑波大学で博士号を取得。詩集に『Poetechnics』、『創造の翼』(2023)など。ナナオ・サカキ詩集『砂漠の風のサボテン』、現代日本詩アンソロジー『Mandalas』(2022)など、日本語詩のスペイン語訳も多数手がける。日本とラテンアメリカの詩を中心に、エコポエティクス(環境詩学)を研究している。



会場
案内

東京外国語大学 府中キャンパス 研究講義棟 227教室

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

- JR中央線「武蔵境」駅乗り換え 西武多摩川線「多磨」駅下車徒歩5分(JR新宿駅から約40分)
- 京王電鉄「飛田給」駅北口より 多磨駅行き京王バスにて約10分「東京外国語大学前」下車



Google Map